

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 5 月 21 日現在

機関番号：11301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K20659

研究課題名(和文) 看護師の専門職意識を測定する尺度の開発と専門職意識の予測因子の解明

研究課題名(英文) Development of a scale measuring nurses' sense of profession and elucidation of factors predicting sense of profession factors

研究代表者

高田 望 (TAKADA, NOZOMU)

東北大学・医学系研究科・助手

研究者番号：60746840

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：看護師の専門職意識を測定する尺度を開発し、看護師の専門職意識の予測因子を明らかにすることを目的とした。

看護師の専門職意識の概念分析を行い、看護師の専門職意識は12の下位概念で構成されていることを同定した。この概念を元にアイテムプールを作成し、2回の質問紙調査を通じて38項目8下位因子で構成される尺度(看護師の専門職態度尺度)を作成した。看護師の専門職意識を予測する要因については、現在解析中である。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to develop a scale to measure the professional attitude of nurses in Japan and to clarify predictors of the professional attitude of nurses.

We conducted a conceptual analysis of the nurses' sense of profession and identified that the nurses' sense of profession consists of 12 subordinate concepts. Based on this concept, we created an item pool and developed a scale (nurse professional attitude scale) consisting of 38 items 8 subordinate factors through two questionnaire surveys. Factors predicting the nurses' sense of profession are currently being analyzed.

研究分野：看護管理学

キーワード：看護師の専門職態度 看護師の専門職意識 尺度作成

1. 研究開始当初の背景

(1) 看護師の専門職性を高める必要性

超高齢社会の到来に伴い医療ニーズが急速に増大する中で、看護職にも役割を最大限に発揮することが期待されている。看護職にはより高い知識と技術が求められ、社会的責任は大きくなっているにもかかわらず、歴史的に看護職は半専門職として扱われ、いまだ十分に専門職として認められていない。看護師が人々の健康に貢献するためには、個々の看護師が高い専門職性を発揮して日々のケアにあたる必要がある。専門職性の高い看護師の育成は基礎教育だけでなせるものではなく、臨床現場で継続した看護師教育が必要であるが、専門職性を高めるために必要な要因は明らかになっていない。

(2) 看護をとりまく社会の変化を踏まえて、看護師の専門職性を再考する必要性

看護師の専門職性とは何かという命題は、古くから繰り返されてきた看護界にとって歴史のあるテーマである。本研究では、看護師の専門職性の概念が非常に重要である。日本での看護師の専門職性の概念に関する先行研究として、定廣、志自岐、中村、葛西の報告がある。それぞれ非常に意義深い研究ではあるものの、看護はこうあるべきという理念が先行し臨床現場の実態を反映していない面が見受けられる。具体的には、療養上の世話こそが看護の本質であるという前提があると推察され、臨床現場で看護師の大きな役割である診療の補助の中にある専門職性を十分に反映していない。医療需要の増加から看護師には直接的に医療行為に関わることが求められている現状を踏まえて、看護師の専門職性の概念を再考する必要がある。

(3) 看護師の専門職意識に関する測定尺度開発の必要性

看護師の専門職性を測定する尺度には、葛西が作成したものがある。しかし信頼性・妥当性の検討は行われておらず、質問内容の重複や、ひとつの質問に複数の内容が含まれているなど、尺度としての課題がある。また菊池の看護の専門職的自律性測定尺度はよく知られた尺度であるが、専門職的自律性といながらもその内容からは看護師の能力を測定していると考えられる点で課題が残る。これらの先行研究における限界を踏まえ、看護師の専門職性を測定可能な尺度の開発が望まれる。

2. 研究の目的

看護師の専門職性を測定可能な専門職意識として概念構築し、看護師の専門職意識を測定する尺度を開発し、看護師の専門職意識の予測因子を解明することが目的である。

3. 研究の方法

本研究は以下の3つの段階を経て実施する。

(1) 看護師の専門職意識の概念分析

社会学領域の中で吟味されてきた専門職の構成要件を理論的背景として、看護師が専門職として確立するために必要な看護師の専門職意識を構成する概念を、演繹的手法を用いて明らかにする。

(2) 予備調査

概念分析の結果から、看護師の専門職意識を測定するためのアイテムプールを作成する。尺度開発のため、病院で働く看護師に質問紙調査を実施し、探索的因子分析、確証的

因子分析によって因子構造を検討する。

(3) 本調査

予備調査の結果を踏まえ、アイテムの修正を行い、看護師を対象とした調査を実施する。項目分析、探索的因子分析、確証的因子分析、妥当性・信頼性の検証を行い、尺度を確定する。さらに看護師の専門職意識に影響する因子を多変量解析によって明らかにする。

4. 研究成果

(1) 看護師の専門職意識を構成する概念の検討

概念分析の結果、看護師の専門職意識は高度な知識体系に関する意識、公共意識、自律意識の3概念で構成されており、これらの3概念はさらに小さな下位概念で構成された。下位概念は、高度な知識体系の確立、自己成長、知の創造、教育水準の向上、倫理観、専門職組織への加入、職務志向、応召責任、業務の独立性、自律的な臨床判断、働き方の裁量、専門職集団が有する価値の尊重の12概念であり、それぞれの定義を明確化した。

(2) 看護師の専門職意識を測定する尺度のプロトタイプの作成

概念分析の結果で得られた構成概念の枠組みを尺度の因子構造の前提とした。下位概念ごとに、それらを測定することが可能な表現を用いた複数のアイテムを作成した。専門家会議、プレテストを経てアイテムの精選を行ない、内容妥当性と表面妥当性が向上するよう検討を重ねた。質問内容が不明瞭なアイテムや、質問に複数の内容が含まれるアイテムとならないよう注意を払った。これらの検討の結果、最終的に46の質問項目で構成される質問紙を作成した。回答方法は、そう思

う～そう思わないの5段階リッカート尺度とした。

(3) 尺度作成(予備調査)

続いて、看護師の専門職意識を測定する尺度(その後看護師の専門職態度尺度と名称を変更した)を作成するため、予備調査として、東北地方にある3つの総合病院に勤務する看護師1419名に質問紙を配布し、1209名から回答を得た(回収率85.2%)。このうち、回答内容に不備のない1101部を分析に使用した。正規性の確認のため尖度および歪度を指標として1項目を除外した。残りの47項目中7項目で天井効果を認めしたが、いずれも専門職として欠かせない項目であること、倫理にかかわる質問などの、回答が高得点に偏ることが妥当な質問であることから、項目の削除は行わなかった。次に固有値1以上の因子数、因子負荷量0.4以上を基準として、最尤法、Promax回転で探索的因子分析を行った。その結果、36項目9因子構造で解釈可能な因子構造が得られた。9因子はそれぞれ専門職知識・技術の社会化、科学的な看護の構築、倫理的な行動、業務の独立性、自律的な臨床判断、応召責任、専門職集団としての自律、聖職志向からの解放、資格制度の発展と命名した($\alpha = .64 \sim .87$ 、累積寄与率=56.1%)。確証的因子分析では、高度な知識体系、公共性、自律性の上位概念の下に9因子が構成される因子構造モデルを採用した。適合度指標はGFI=0.87、AGFI=0.85、RMSEA=0.059であり、全てのパスが有意であった。この結果から看護師の専門職態度の因子構造を同定し、さらにモデル適合度が向上するよう、アイテムの修正と追加を行い、59の質問項目で構成される質問紙を作成した。

(4) 尺度作成 (本調査)

本調査では、東北地方の1つの県に所在する全病院からランダムサンプリングした65病院に、調査協力の依頼状を送付した。そのうち29病院から協力を得ることができた。29病院に勤務する看護師2657名を対象として、再度質問紙調査を実施した。回収方法は郵送法とし、1770部を回収した(回収率66.6%)。尺度作成では、心理尺度作成の手順に準じて、項目分析、探索的因子分析、確証的因子分析を実施した。項目分析において天井効果を示した12項目、Item-Total相関が0.2を下回った2項目を除外した。この過程で、「倫理的な行動」に含まれる質問項目のほとんどが、天井効果のため除外された。これは、専門職として倫理的に行動する態度はすでにほとんどの看護師が備えていることを示していると考えられた。「倫理的な行動」を除いて、予備調査で作成した尺度とほぼ同じ因子構造が再現された。これにより、看護師の専門職態度の構成概念を提示することができた。併存妥当性および予測的妥当性の検証を行い、最終的に38項目8下位概念で構成される看護師の専門職態度尺度を確定した。

(5) 看護師の専門職態度を予測する因子の解明

看護師の専門職態度に影響する因子については、看護師の専門職態度を従属変数、そのほかの変数を独立変数として多変量解析を実施した。さらに共分散構造モデルによる詳細な分析を実施中であり、研究課題の目的であった予測因子の解明について成果が得られると見込まれる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計1件)

1. 高田望, 朝倉京子, 杉山祥子: 看護師の専門職意識を構成する概念の検討、東北大学医学部保健学科紀要、25巻、47-57、2016【査読あり】

[学会発表](計2件)

1. 高田望, 朝倉京子: 看護師の専門職態度の因子構造モデル: 看護師の専門職態度尺度開発のための基礎研究、第37回日本看護科学学会学術集会、2017

2. 成田愛, 朝倉京子, 高田望: 看護実践環境が看護師の能力開発に及ぼす影響、第37回日本看護科学学会学術集会、2017

[図書](計0件)

[産業財産権]

出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6．研究組織

(1)研究代表者

高田 望 (Takada Nozomu)

東北大学・医学系研究科・助手

研究者番号：60746840

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

朝倉 京子 (Asakura Kyoko)

東北大学医学系研究科・教授

研究者番号：00360016

(4)研究協力者

()